



I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (星座)	日没	日付	夜半の月齢	月出 (星座)	月没
日	時分	時分	日	日	時分	時分
1	4:44 (うし)	19:5	1	11.1	15:33 (をとめ)	1:51
6	4:43 "	19:8	2	12.1	16:29 "	2:23
11	4:42 "	19:11	3	13.1	17:26 (てんびん)	2:58
16	4:42 "	19:13	4	14.1	18:24 (さそり)	3:38
21	4:43 (ふたご)	19:14	5	15.1	19:19 (へびつかひ)	4:24
26	4:44 "	19:15	6	16.1	20:9 (いて)	5:16
(翌1)	4:46 "	19:15	7	17.1	20:56 "	6:12
			8	18.1	21:39 "	7:14
			9	19.1	22:17 (やぎ)	8:18
			10	20.1	22:52 (みづがめ)	9:22
			11	21.1	23:24 "	10:27
			12	22.1	23:56 (うし)	11:33
			13	23.1	—	12:40
			14	24.1	0:29 "	13:38
			15	25.1	1:6 "	14:57
			16	26.1	1:47 (ひつじ)	16:8
			17	27.1	2:33 "	17:16
			18	28.1	3:26 (をうし)	18:21
			19	29.1	4:24 "	19:19
			20	0.8	5:27 (ふたご)	20:9
			21	1.8	6:32 "	20:52
			22	2.8	7:37 (かに)	21:29
			23	3.8	8:38 "	22:2
			24	4.8	9:38 (ろくぶんぎ)	22:30
			25	5.8	10:35 (し)	22:57
			26	6.8	11:31 "	23:24
			27	7.8	12:26 (をとめ)	23:51
			28	8.8	13:22 "	—
			29	9.8	14:18 "	0:22
			30	10.8	15:15 (てんびん)	0:55

II—天象

日	時	天象
5, 16		水(南3.°0)と金と合
6, 2		木(北2.°)と月と合
10, —		木星が對衝
11, —		火星と會合
12, —		水星が停留
13, —		土星が西矩
13, 4		土(南8.°)と月と合
18, 4		水(南7.°)と月と合
19, 14		皆既日食
20, 13		金(南0.°5)と月と合
21, 23		夏至
25, —		水星極大離角(西220)
29, —		金星が外合
30, —		土星輪の消失

満月 6月5日14時22分 下弦 6月12日21時5分
 新月 6月19日14時15分 上弦 6月27日4時23分

主な流星群

日付	赤經	赤緯	附近の星	性質
6月下旬	24°	+43°	アンドロメダ	速痕
月末	213°	+53°	大熊座	緩

遊 星 界 (6月)

水星 月始め太陽附近を逆行中であるから観望は出来ないが、12日停留以後、中旬より夜明に東天に現れるやうになる。2ヶ月ぶりの観望期で、25日には西へ極大離角 22° となり、牛座 アルデバラン の北東に0等級の輝きを發するだらう。

金星 太陽のすぐ西側に強い-3等の光を放つてゐるが、日々太陽に近く、約2ヶ月間は観測は出来ぬだらう。

火星 11日に會合があり、この月中全く見えない。

木星 10日太陽と 180° 離れ、即ち對衝となり終夜觀られる。〔蛇遣ひ〕座の南端、アンタレス星の東に負2等級の光輝を放つてゐる。観測の好機、日暮の東天と夜明の西空に現れる時は旅人の郷愁を慰めるであらう。

土星 夜半に東天に上り曉まで、充分観望出来る、本年唯一の人氣星。13日に西炬となる。環の消失観測は梅雨中ではあり早曉の事で、少々つらいが、15年に一度の事である。28日頃より2、3日、ジツと監視して、環の正體を見届ける事である。〔水瓶〕星座の東、赤いフオマルホ1ト星の北に1.4等級の淡いドンヨリした光を放つてゐる。

天王星 太陽の西側、羊座にあつて、曉の星、段々見易くなる。6.2等

海王星 宵の星で観望の好機、〔獅子〕座にある。7.8等

冥王星 双子座ベータ星の南の邊を逍遙中。

星座 梅雨中で、天候に防げられると口惜しいが、追々天空の傑物が現れる。北天は大熊座の舞臺だが、ヘルクレス座、琴座が上ると夏の銀河が地平に白幕の如く擴がり、夏近きを思はせ、白鳥座が横ざまになつて現れる。西には獅子座が晩くまで見え、南天の見易い處に〔乙女座〕がスピカを主星に君臨し、天頂高く〔牧夫〕座がアルクトウルを頭に見易く、〔蛇遣ひ〕の五角形が整ふと早くも〔蝸〕が現れる。